

ニュース報道の速報性、経済性を高め、 グローバルかつフレキシブルな取材活動を可能にする SilverBullet

ニュース報道は速報性が極めて重要であり現場は常に一刻を争う。その一方でハイビジョンから 4K へと高精細・大容量化し、取材活動もよりグローバルにカバーすることが求められている。この二律背反した要請の中で、ニュース素材の迅速な伝送は大きな課題となる。すでに数年前からインターネットなど IP での素材送りは行なわれているが、特に遠距離間や不安定な回線では信頼できる手段は限られていた。SilverBulletはこうした要望に応えるツールとして、読売テレビ放送の報道制作に欠かせない存在になりつつある。

課題

- ニュース素材が高精細・大容量化し、取材活動もよりグローバルに広がる中で、報道の速報性を維持・強化していくことが求められている
- FTP は遠距離間や不安定な回線で信頼性に乏しい面がある
- これまで活用してきた海外製 UDP ツールはサポート切れにより、代替が必要

検討プロセス

- 業界関係者のイベントで SilverBullet 製品説明に、技術担当者が関心
- 系列キー局の導入実績による互換性、信頼性への期待上昇
- 和歌山ー大阪間での 3 倍の高速伝送結果を示したことによる確信

導入効果

- 欧州取材現場 - 大阪本社間で FTP の 3 倍以上の高速伝送環境を提供 (700MB ファイルの転送で少なくとも不安定かつ 15 分以上要するフローを安定的に 5 分未満で完了)
- FPU (マイクロ波伝送装置) の使えない現場での素材伝送手段の確保
- FFFTP、既存 UDP ツールを代替し、海外や不安定な回線状況下の報道活動の迅速化を支援



■国内外を問わず、取材現場で求められるインターネットを介した高速ファイル転送ツール

在阪の民放テレビ局として 1958 年に開局した読売テレビ放送。同社が加盟する NNN(Nippon News Network) は国内最大のニュース系列であり、比較的早期からハイビジョンでの中継、取材に力を入れるなど、報道体制の強化には関心が高い。同社技術局の湯川洋輔氏はこの報道制作の速報性、フレキシビリティを維持向上する上で日々、様々な課題に取り組んでいる。運用の自動化に向けて録画が終われば自動転送するような FTP によるミラーリングの仕組みなど VisualBasic で自作することも少なくない。その湯川氏にはこの数年、懸念している課題があった。「これまで取材現場からのニュース素材は、インターネットで繋がる環境であれば FTP か海外製の UDP ツールを使っていました。ただ、FTP は遅く海外製 UDP ツールはサポートを終了するため、その代替方法が必要となっていました」(湯川氏)

実際、海外取材先からの転送は FTP では心もとない。同社グループ会社 ytv Nextry 所属のカメラマン西川亮氏は「FTP を使っても送信に時間が掛るだけでなく、途中で止まりーからやり直しということが多々あります。それが怖くて 3 カットずつ送るなど手間を掛ける必要があるのです」と、海外取材でのファイル転送の難しさを口にする。机上の理論では台湾など近隣アジアなら可搬型のアップリンク (人工衛星への上り通信) 装置を運んで行けば何とかなる可能性はあるが、より遠隔地となると「1 日数十万円のコストをかけて衛星中継車を借りる、あるいは地元放送局などの回線を借りるなど手配に奔走しなければなりません。しかも、後者の場合は地元放送局が取材現場から遠いことも多く、速報性の観点からは不利になります」(湯川氏) というのが実情。

それは、国内であっても本質的には同じといえる。「FPU (マイクロ波伝送装置) 網のない地域では、中継車が到着しなければ、支局に戻らないと素材送りができない。少しでも早くニュース素材を送れば報道の速報性にかないます」(西川氏)。それだけに、高画質な大容量ファイルをインターネットで高速転送できるツールは報道制作において「確実に必要」(同) となる。

読売テレビ放送 様



読売テレビ放送株式会社
技術局 主務
湯川 洋輔 氏



読売テレビ放送株式会社
技術局
矢野 健太郎 氏



株式会社 ytv Nextry
カメラマン
西川 亮 氏



読売テレビ放送株式会社

本社：大阪市中央区城見 2-2-33

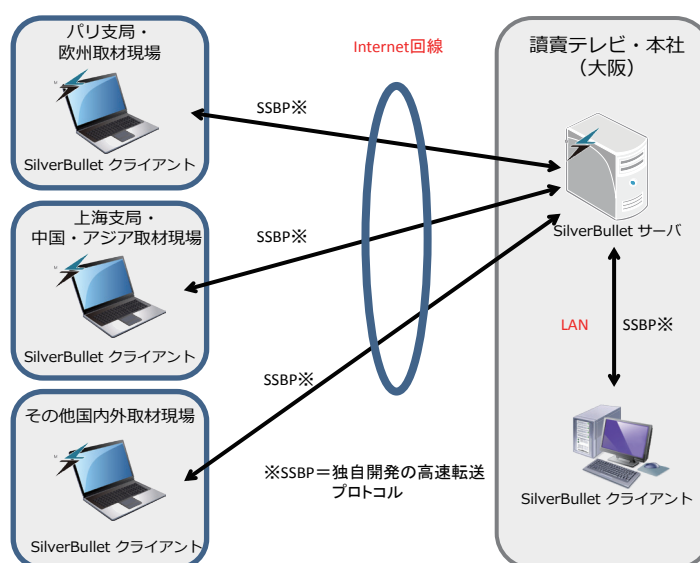
創立：1958 年 2 月 13 日

資本金：6 億 5 千万円

従業員数：518 名（2013 年 3 月末現在）

業務内容：放送法に基づくテレビジョン
放送

SilverBullet利用構成図



■和歌山ー大阪間でも 3 倍の高速性を発揮した SilverBullet に感動

海外製 UDP ツールのサポート切れが迫る中、代替ツールを探さねばならないとの思いは技術局のメンバーに常に共有されていた。そんな矢先、徳島県で 4K 祭（まつり）と呼称する業界関係者を中心としたイベントが催され、そこに湯川氏と同じ技術局所属の矢野健太郎氏が参加し、ブース出展していた S k e e d の存在を知った。「SilverBullet の説明を受けて、これはいいと思い本社に招き報道部門担当者も交えて意見交換しました。しかも系列キー局の日本テレビが既に SilverBullet を導入していることも分かり、互換性、信頼性の点で更に期待が膨らみました」（矢野氏）

その後、報道部門が協力し和歌山県南紀勝浦から大阪本社まで転送実験を行った結果、FTP に比べて 3 倍の実効速度の向上がみられた。実験結果を知った西川氏は「説明では遠距離間ほど威力を発揮するということだったので、逆に国内しかも隣県とのやり取りでは大きな効果はないと思っていました。それだけに感動しました。何よりこのファイル転送に気を使わなくてよいというのは現場の人間にとって一番うれしいことです」と SilverBullet の性能を高く評価する。

■既存の伝送方法では難しい地域への取材に不可欠な存在

SilverBullet 導入後、報道部門は積極的に活用を進めている。「パリ支局、上海支局、さらにその他 FPU（マイクロ波伝送装置）の使えないような国内外の取材先に持参したクライアント PC から、SilverBullet サーバのある本社に向けて、ニュース映像などのファイルを随時転送しています」（西川氏）。ちなみにパリ支局駐在スタッフの話では、「欧州の取材現場から大阪本社に 700MB の取材映像ファイルを転送すると、FTP なら不安定な上に最低 15 分以上はかかるが、SilverBullet なら安定した転送で 5 分を切る」という。

今後、湯川氏は SilverBullet クライアント PC をカメラマンだけでなく、記者にも持たせたいとの意向を持つ。「記者が取材現場で遭遇した人から撮影動画などのファイルをクライアント PC に移してもらい、そこから本社に高速転送するということを考えています」

報道制作の現場で確実に浸透しつつある SilverBullet。なくてはならないツールとして、活用の場は広がるばかりだ。



株式会社 Skeed

〒153-0063 東京都目黒区目黒1-6-17 目黒プレイスタワー5F

TEL:03-5487-1033 FAX:03-5487-1037

http://www.skeed.co.jp E-mail:ssb@skeed.co.jp